

Jブルークレジットに関する検討

令和4年度 第2回 地球温暖化防止に貢献する
ブルーカーボンの役割に関する検討会

R3認証事例のフォローアップ(第1回検討会資料再掲)

• R3認証事例

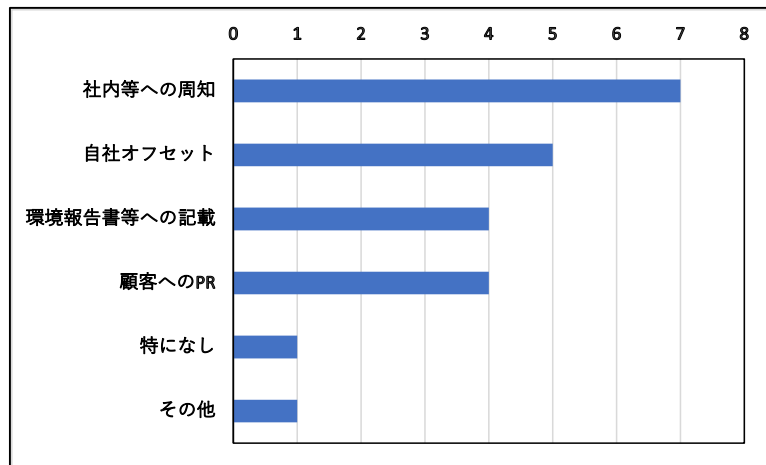
| 港湾名 | プロジェクト実施者 | 特徴 |
|-------|---|--|
| 横浜港 | 横浜市漁協 NPO法人海辺つくり研究会 金沢八景一東京湾アマモ場再生会議 | 令和2年度認証第1号 関東地整UMIプロジェクト等多様な主体が連携した藻場再生・保全活動 |
| 神戸港 | 兵庫漁業協同組合 兵庫運河を美しくする会 神戸市立浜山小学校 兵庫・水辺ネットワーク | 教育機関(小学校)による初の認証事例 湿地・干潟の認証第1号 防波堤撤去材を活用した造成干潟等における藻場・干潟の再生・保全活動 |
| 徳山下松港 | 山口県漁業協同組合周南統括支店 大島干潟を育てる会 周南市 | 地方自治体による初の認証事例 港湾浚渫土を活用した造成浅場における海藻場の保全活動 |

• クレジット認証・発行量等

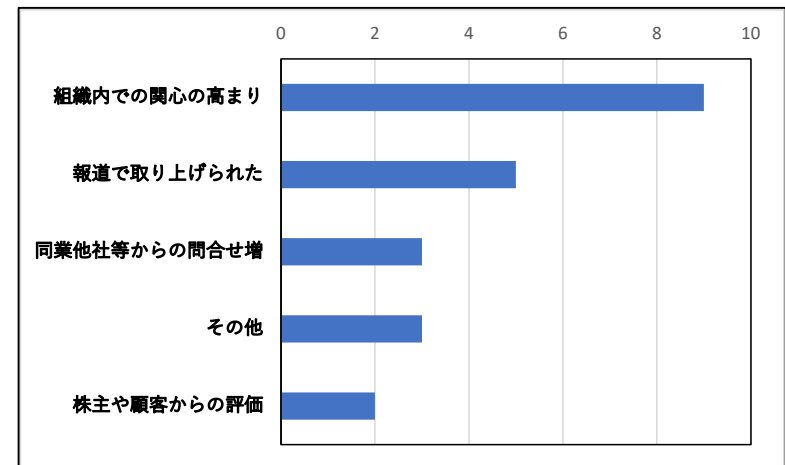
| 港湾名 | 認証量 (t-CO2/ha) | 購入企業 | 販売方法 |
|-------|-------------------|------|----------------------|
| 横浜港 | 19.4 | 4社 | コンベンショナル方式(複数単価入札方式) |
| 神戸港 | 1.1 | 8社 | 総量配分方式(口数型) |
| 徳山下松港 | 44.3 | 14社 | ※徳山下松港は口数制限あり |

- R3認証事例のクレジット活用状況や企業連携等の状況
 - 認証交付されたクレジットは3件とも一部または全部が活用されていた
 - 活用先は「機材や備品の購入」「活動の充実」「組織の拡充や増強」等
 - クレジットの認証交付で、「地元の評価向上」「活動の活性化」「取材や問合せの増加」等の効果が得られた
 - 3件ともクレジット購入企業と何らかの交流を行っており、活動への直接参加も得られている
 - 課題や要望
 - ・コンタクトがない購入企業に積極的にアプローチする必要があると感じている
 - ・購入企業同士の交流がないので今後はそのような機会を作りたい
 - ・企業に対してクレジット創出をプレゼンをする機会がほしい
 - ・クレジットを活用して活動を広げたいが人的資源の問題で対応できないジレンマがある
 - ・申請書作成に多くの時間と費用がかかり取得クレジットとのバランスを考えると、どの程度の精度で調査や資料作成をすれば良いのか示してほしい
 - ・今後BC生態系を増大する取組を実施するにあたって指導助言をしてくれる公的機関があれば紹介してほしい
 - ・生物多様性の観点から豊かな海づくりを数値化する手法等を教えてほしい

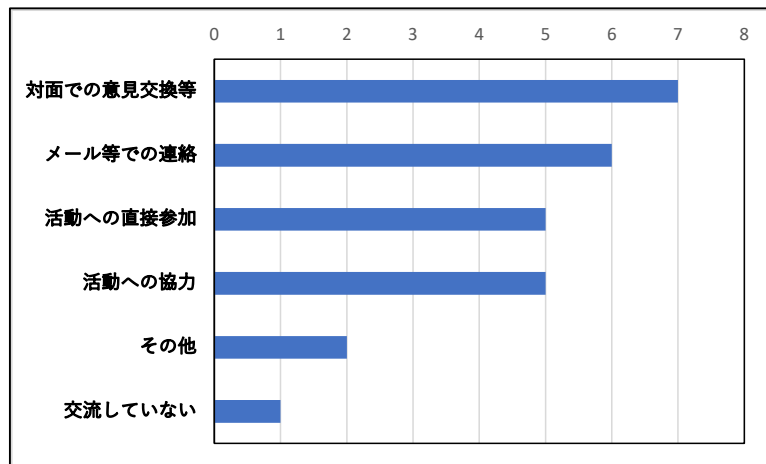
• R3クレジット購入企業のクレジット活用状況(回答11社)



購入したクレジットの活用状況や情報発信等



クレジット購入に対する社内あるいは対外的な評価



クレジット創出者との交流状況

- クレジットの活用先は、社内での周知が最も多く、次いでオフセット、環境報告書等への記載、であった
- クレジット購入の効果は、組織内での評価が最も多く、次いで報道で取り上げられたが約半数であった
- 外部評価はまだ十分ではなく、今後制度そのものの周知も含めて積極的なPRが必要と考えられる
- クレジット創出者との交流は、ほとんどの企業が何らかの形で交流しており、活動への参加・協力も約半数と積極的にクレジット創出に関与していた

・ R3クレジット購入企業のクレジット活用状況

応募手続きや購入に際する社内手続き等の状況

| | | | |
|-------------|--------|------|--------|
| 募集時期 | 早い | 適正 | 遅い |
| | 0 | 9 | 2 |
| 募集期間 | 短い | 適正 | 長い |
| | 3 | 8 | 0 |
| 応募に関する社内手続き | 問題ない | やや困難 | 困難 |
| | 5 | 4 | 1 |
| 応募要領 | わかりやすい | 普通 | わかりにくい |
| | 4 | 6 | 0 |
| 応募手続き | 簡単 | 普通 | 煩雑 |
| | 4 | 4 | 3 |
| 譲渡手続き | 簡単 | 普通 | 煩雑 |
| | 4 | 5 | 1 |

購入で苦労した点

公募開始の公告が年末にあり、社内で諮るのが年始以降となってしまう、公募期間が暦上1月あったものの、実質2週間程度しか余裕がなく応募が慌ただしかった。更に、応募途中でも応募多数の場合は締め切る可能性がある旨の断りがあったので、なおのこと社内調整から応募まで非常に慌ただしい状況であった。

申込や無効化の申請書類への記入が煩雑なので、Web申込とするなど、簡便な方法をご検討いただけると有難い。

現時点では、費用の転嫁が困難なことが予想されます。

コンベンション方式は不確実性があり、結果として購入できない場合のことを考慮するとコンベンション方式での購入は難しいと考えております。

購入申し込みにあたっては、社内稟議を経て購入資金を事前準備しますが、結果的に購入できない場合、社内対応にも購入時と同様のロードが発生してしまいます。

Jブルークレジットの購入が事業にどの程度貢献できるか定量的な評価が難しい。

募集時期が年末の多忙な時期と重なるので、時間的に辛いです。

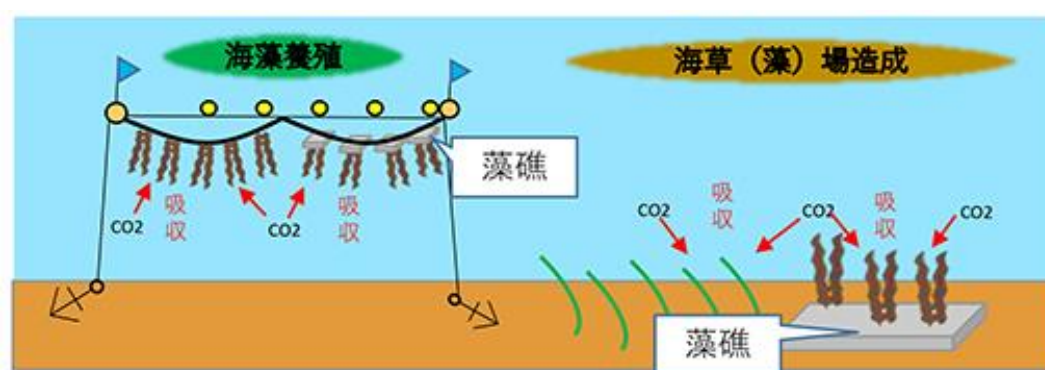
急な連絡手段がないのはすごく困りました

企業としては社内決済をとる必要があり、制度そのものの内容から説明する必要がある

JブルークレジットのR5申請に向けたケーススタディ

- 令和2年度から令和4年度のクレジット認証・交付状況を踏まえて、今後の展開に参考となる事例として、以下の3件を抽出した。
 - 北海道：留萌港 防波堤背後海域における海藻培養技術開発
 - 東京湾：葛西 NPOによる里海づくり活動（海苔、ワカメ養殖）
 - 博多湾：博多港 NPOによるアマモ場等保全・再生活動
- 確認事項
 - プロジェクト概要（対象生態系含む）、実施主体等

- 留萌海域におけるブルーカーボン事業に向けた海草(藻)培養技術開発(仮称)
- 実施期間: 令和4年10月1日～令和6年3月31日
- 実施主体: 留萌市、北海道電力(株)
- 実施内容:
海藻養殖を活用した脱炭素社会に向けたCO₂吸収源対策及び、水産業振興策両面での推進
発電所から発生する石炭灰や、一般的なコンクリート製と比較して製造過程のCO₂排出量を抑制する「バイオマス燃焼灰」を用いた**藻礁基質(コンブ)**を開発し、利用することによりCO₂削減を目指す



発電所での発生灰を利用した藻礁



藻礁に付着させたリシコンブ



海上での繁茂状況

- 東京湾奥における里海づくり活動：アサクサノリ・ワカメ養殖の地産地消
- 実施主体：NPO法人ふるさと東京を考える実行委員会
- 実施内容：葛西海浜公園西なぎさでのアサクサノリとワカメ養殖等
地産地消による里海づくり活動を継続的に実施しており、
Jブルークレジットを活用して活動の継続と気候変動緩和策への
貢献を目指す

調査研究・研究開発事業 **竹ひび1人1本活動**
(令和二年度設置本数269本：設置総数2,996本)



調査研究・研究開発事業 **多摩川産浅草海苔の育成**



調査研究・研究開発事業 **西なぎさでのワカメの育成**



- 博多港におけるアマモ場等の保全・再生活動
- 実施主体：一般社団法人ふくおかFUN
- 実施内容：
西福岡マリナタウン地区の小戸公園地先の**アマモ場**の保全再生活動をはじめとして、博多湾内の藻場保全・再生活動、水中動画撮影、スノーケリング体験、環境学習等豊かな博多湾の環境保全活動に継続的に取り組んでいる

※海の中道地先で行なわれた九州地整のカルシア改質土の実証実験(H21・H22)のほか、ももち・愛宕浜等の人工海浜の突堤・離岸堤部の岩礁性藻場等、ブルーカーボン生態系の状況を今後確認予定

